

Point 103

386 The next committee meeting will be held () the 7th of
□□□ January.

- ① at ② of ③ on ④ in

〈北里大〉

387 He started for London () the morning of the seventh.

- ① in ② on ③ to ④ at

〈桃山学院大〉

388 I parked my car () the corner where the bank is.

- ① upon ② into ③ at ④ for

〈駒澤大〉

389 Ted Carson was born () at 10:30 in the morning.

- ① on New York by August 7, 1944
② in New York in August 7, 1944
③ in New York on August 7, 1944
④ on New York at August 7, 1944

〈清泉女子大〉

Point 104

390 I will go now and will be back () about an hour.

- ① with ② in ③ by ④ on

〈九州産業大〉

386 次回の委員会は1月7日に開催されます。

387 7日の午前中に、彼はロンドンに向かって出発した。

388 私は、車を銀行のある角に止めた。

389 テッド・カーソンは1944年8月7日午前10時30分にニューヨークで生まれた。

390 今から出かけて1時間ほどで戻ってきます。

Point 103 ∷ 時・場所を表す前置詞 in / on / at の基本用法

【整理36】と【整理37】で考え方を押さえておこう。

386 「日」を表す **on**

基本

387 特定の朝を表す **on**

標準

▶一般的な朝を表す場合は in the morning と in を用いる。

388 地点を表す **at**

基本

389 広い場所を表す **in**

基本

▶「日」を表す on, 「時の1点」を表す at, 一般的な朝を表す in the morning が使われていることも確認しよう。

整理 36

時を表す in / on / at の基本用法

- (1) **in**—幅のある期間に用いる。
 ・ *in* 1997 「1997年に」
 ・ *in* (the) summer 「夏に」
 ・ *in* March 「3月に」
- (2) **on**—「日」を示す場合に用いる。
 ・ *on* Sunday 「日曜日に」
 ・ *on* August 20(th) 「8月20日に」
- (3) **at**—「時の1点」を示す場合に用いる。
 ・ *at* five o'clock 「5時に」

*なお、不特定で一般的な朝・午後・夜などを示す場合は、**in the morning / in the evening** など *in* を用いるが、特定の朝などや形容詞が修飾している場合は **on the morning of June 25th / on a cold night** など *on* を用いる。

整理 37

場所を表す in / at の基本用法

- (1) **in**—㉠比較的広い場所の中であることを示す, ㉡何かで囲まれた「内部」を示す。
 ㉡ *in* Japan 「日本で」, ㉠ *in* my car 「私の車で」
- (2) **at**—㉢比較的狭い場所であることを示す, ㉣地点を示す。
 ㉢ *at* a town *in* Kyushu 「九州のある町で」, ㉣ *at* the door 「ドアのところで」

Point 104 ∷ 注意すべき時を表す前置詞

390 経過を表す **in** 「今から…で／…経つと」

標準

＋プラス 「…以内に」の意味では **within** を用いることも押さえておこう。

You will get there *within* [*in*] two hours.

(君は2時間以内に[2時間で]そこに着くだろう)

- 391 Fred is a friend I've known () ten years.
 ① since ② of ③ during ④ for (日本大)
- 392 (a) While I was in the hospital, I learned how important it is to be patient.
 (b) () () stay in the hospital, I learned how important it is to be patient. (津田塾大)
- 393 “How long did you wait?”
 “() six o'clock.”
 ① For ② On ③ Until ④ By (聖学院大)
- 394 Please finish the essay () the end of the class.
 ① by ② during ③ until ④ while (早稲田大)
- 395 This is the heaviest snowfall () twenty years.
 ① after ② at ③ in ④ on (和洋女子大)

Point 105

- 396 There was a full moon () the forest.
 ① into ② on ③ above ④ out (立命館大)
- 397 She is putting a lot of posters () the walls of her room.
 ① at ② by ③ in ④ on (近畿大)
- 398 I went skiing () Mt. Zao last weekend.
 ① until ② at ③ to ④ for (拓殖大)

391 フレッドは私の10年来の友だちです。

392 (a) (b) 入院をしていた間、私は忍耐強いことがいかに大切かを学んだ。

393 「どのくらい待った？」
 「6時までだよ」

394 授業が終わるまでに、その作文を書き終えてください。

395 今回の降雪は、ここ20年で最もすごい。

396 森の上には満月が出ていた。

397 彼女は、自分の部屋の壁にたくさんのポスターを貼っているところだ。

398 先週末、私は蔵王山にスキーに行った。

- 391 **for** と **during** の違い 標準
- ▶前置詞 **for** は通例、数詞などのついた期間を表す語句を従えて、単に「期間の長さ」を表す。
 - ▶**during** は定冠詞などのついた語句を従えて「特定の期間」を表す。
 - ▶本問は、「10年間」という単なる期間を表しているため **for** が入る。
- !!注意** **for a week**「1週間」、**during the week**「その週の間」、**during the vacation**「その休暇中」などで **for** と **during** の違いを確認すること。
- 392 **during my stay in the hospital** 「私が入院中に」(→ 391) 標準
- 393 **until [till]** 「…まで(ずっと)」と **by** 「…まで(には)」 標準
- ▶前置詞 **until [till]** と **by** との違いは、接続詞 **until [till]** と **by the time** の違い(→ 348, 349)と同じ。
 - ▶本問は、継続した状態・動作の終了の時点を表す **until** が入る。
 - ▶空所の後が **six o'clock** 「6時」であるから、① **For** は不可。**six hours** であれば、問題 391 の **for** を使って、**For six hours**. 「6時間です」が正答になる。
- 394 **by** 「…まで(には)」(→ 393) 標準
- 395 最上級 + **in** + 時間 「…の間のうちで最も～」 英作 標準
- ▶前置詞 **in** は、最上級や **first** や **last** のある表現の後で「…の間のうちで」の意味を表す。本問は最上級の後で用いられたもの。
- +プラス** **for the first time in five years** 「5年ぶりに←5年間で初めて」など「Aぶりに」の表現も押さえておこう。

Point 105 :: 注意すべき場所を表す前置詞

- 396 **above** 「(…から離れて)…の上に」 基本
- +プラス** 反意語は **below**。 **A above sea level** 「海拔A」 / **A below sea level** 「海面下A」はよく使われる表現。
- 397 場所を表す **on** の用法 標準
- ▶**on** が場所を示す前置詞として用いられるのは、「接触」を前提にして、「面」を意識する場合と考えればよい。必ずしも「…の上」である必要はない。本問は、その典型的用例。
- 398 **go doing** の後の前置詞 標準
- ▶**go skiing** をはじめとする **go doing** の形は、前置詞 **to** ではなく、**doing** に合わせた前置詞を用いる。**go swimming in the river / go skating on the lake / go sightseeing in London** など。正誤問題などでも頻出。

Point 106

- 399 The land will be sold only ().
 ① for an acre ② to acres ③ in acre ④ by the acre 〈上智大〉
- 400 (a) She is three years older than Jane.
 (b) She is older than Jane () three years. 〈学習院大〉
- 401 あなたは彼の提案に賛成ですか、それとも反対ですか。
 Are you () or () his proposal? 〈西南学院大〉
- 402 Don't talk () your mouth full.
 ① during ② with ③ when ④ over 〈関東学院大〉
- 403 メアリーは胃が痛くなって入院した。
 Mary was admitted (in / hospital / to / a pain / her stomach / with). 〈関西外大〉
- 404 (a) The question is very important.
 (b) The question is () great importance. 〈青山学院大〉
- 405 The wall was so low that they could jump over it ().
 ① in ease ② to ease ③ of ease ④ with ease 〈九州産大〉
- 406 That girl () the red sweat suit runs around the track every morning.
 ① at ② for ③ in ④ to 〈京都学園大〉

399 その土地は、1エーカー単位でのみ売られるだろう。

400 (a) (b) 彼女はジェーンよりも3歳年上です。

402 □に食べ物をいっぱい入れたまま話してはいけません。

404 (a) (b) その質問はとても重要です。

405 その壁はとても低かったので、彼らは簡単に跳び越すことができた。

406 赤いトレーニングスーツを着たあの少女は、毎朝トラックを走っている。

Point 106 重要前置詞の用法

それぞれの前置詞が何を表すのかを正確に確認しながら、1つずつ押さえていくこと。

- 399 単位を表す **by the A** 「A単位に／Aぎめで」 基本
 ▶ **by the A** と必ず **the** を用いること、**A** には単位を表す名詞が来ることを押さえる。cf. **by the hour** 「時間ぎめで」
- 400 差を表す **by** 「…だけ／ほど」 標準
 +プラス 比較級表現の場合、(a)の文のように **by** を用いず、比較の差を表す語句をそのまま比較級の前に置くことがある(→207)。
- 401 賛成の **for** / 反対の **against** 標準
 +プラス 賛成の **for A** は **in favor of A** (→1233) との言いかえでもよく問われる。
- 402 付帯状況の **with-with + A** + 形容詞 標準
 ▶ Point 056 で「**with + A**(名詞) + 分詞」の付帯状況表現を解説したが、そこで「**with + A + 形容詞 / 前置詞句 / 副詞**」の用例についても述べた。本問は「**with + A + 形容詞**」の用例。
- 403 付帯状況の **with-with + A** + 前置詞句 標準
 ▶ 「**with + A + 前置詞句**」の付帯状況表現を作る。
- 404 **of** + 抽象名詞 = 形容詞 標準
 ▶ 「**of + 抽象名詞**」の形で形容詞と同じ働きをするものがある。本問は **of importance = important** の意味になる。
 +プラス 他に **of use = useful**, **of help = helpful**, **of value = valuable**, **of sense = sensible** 「分別のある」などを押さえておこう。
- 405 **with** + 抽象名詞 = 副詞 標準
 ▶ 「**with + 抽象名詞**」の形で副詞と同じ働きをするものがある。本問は **with ease = easily** の意味になる。
 +プラス 他に、**with care = carefully**, **with kindness = kindly**, **with rapidity = rapidly** 「速く」、**with fluency = fluently** 「流暢に」などを押さえておこう。
- 406 着衣の **in** 標準
 ▶ 衣服などを身につけていることを示す場合、**in** を用いる。
 +プラス **in red [white]** だけでも「赤い[白い]服を身につけて」の意味になる。

- 407 Let's talk () a cup of tea, shall we?
 ① in ② at ③ on ④ over (東海大)
- 408 It is very mild () the middle of January.
 ① for ② with ③ on ④ of (関西外大)
- 409 Sally is rather tall () her age.
 ① at ② of ③ to ④ for (獨協大)
- 410 () my surprise, she didn't come to their wedding party.
 ① At ② By ③ To ④ With (東京理大)
- 411 The judge finally settled everything () everyone's satisfaction.
 ① with ② from ③ in ④ to (中央大)
- 412 He has two other children () Alan.
 ① besides ② except ③ without ④ on (立命館大)
- 413 You could visit me any day () Sunday. I go to church every Sunday.
 ① of ② with ③ on ④ but (名城大)
- 414 I'm afraid I left my pen in my office. Do you have something to write ()?
 ① by ② to ③ with ④ for (青山学院大)

- 407 お茶を飲みながら話しませんか。
- 408 1月半ばのわりにはとても天気が穏やかです。
- 409 サリーは年齢のわりにはかなり背が高い。
- 410 驚いたことに、彼女は彼らの結婚パーティーにやって来なかった。
- 411 すべての人が満足するように、裁判官は最終的にすべてのことを解決した。
- 412 彼には、アランの他にあと2人子どもがいます。
- 413 日曜日以外ならいつでも私を訪ねてきてください。毎週日曜日は教会に行きます。
- 414 あいにくオフィスにペンを忘れた。何か書くものを持っていますか。

- 407 従事の **over** 「…しながら」 標準
 ▶ **over** には「…しながら」という「従事」を表す用法がある。
 !!注意 飲食物だけでなく **over a book** 「本を読みながら」のようにも使う。
- 408 観点・基準の **for** 「…のわりには」 標準
 ▶ **for** には「…のわりには」という観点・基準を表す用法がある。
- 409 **for one's age** 「年齢のわりには」 標準
 ▶ 観点・基準の **for** を用いた成句表現。
- 410 結果の **to—to+A's**+感情名詞「Aが…したことに」 基本
 ▶「**to+A's+感情名詞**」は、結果としての感情状態を表す。「Aが…したことに」と訳せることが多い。
- 411 **to A's satisfaction** 「Aが満足するように」 標準
 ▶ 結果の to(⇒410)を用いた **to A's satisfaction** は、一般に文頭で用いて「Aが満足したことに」、文尾で用いて「Aが満足するように」の意味を表す。本問は後者の用例。
- 412 追加の **besides** 「…の他に／…に加えて」 標準
 ▶ **besides** は肯定文では「…の他に／…に加えて」の意味で「追加」を表す。② **except** は「…を除いて」の意味で「除外」を表す。日本語では、判断がつきにくいので要注意。
 ▶ 本問では、Alan も「彼の子ども」であるはずだから、「追加」の **besides** が入る。
 +プラス **besides** は主として疑問文・否定文で「…を除いて」(=except)の意味で使われることもある。
 !!注意 よく似た前置詞に **beside** があるが、これは「…のそばに」という意味。**besides** と混同しないこと。
- 413 除外の **but=except** 「…を除いて」 発展
 ▶ **but** には「…を除いて」という **except** の意味で前置詞として用いられる用法がある。
 +プラス **the last A but one** 「最後から2番目のA ← 1つを除いた最後のA」という表現もよく用いられる。
- 414 道具の **with** 「…を使って」 基本
 ▶ **with** には、「…を使って／…で」という道具・手段を表す用法がある。

415 Unfortunately, we do not have any apartments available ()
 □□□ furniture.

- ① at ② in ③ on ④ with 〈立命館大〉

416 I can't understand this mathematics problem; it is () me.
 □□□ ① ahead ② beyond ③ up to ④ all over 〈南山大〉

417 The beauty of the sunset was () description.
 □□□ ① over ② beyond ③ above ④ across 〈清泉女子大〉

418 () their severe early troubles, they ended up getting
 □□□ married.
 ① Because of ② Despite ③ Due to ④ By way of 〈青山学院大〉

419 () what I could understand, they convinced the
 □□□ government to back down.
 ① By ② As far as ③ About ④ From 〈立命館大〉

420 This is the café famous and popular () local residents as
 □□□ well as visitors.
 ① for ② among ③ in ④ to 〈日本大〉

421 今週の最低気温は5度から10度の範囲で推移している。
 □□□ The low temperature this week has ranged () five and ten
 degrees. 〈西南学院大〉

415 残念ながら、当社には家具付きアパートの空室はありません。

416 この数学の問題がわかりません。それは私の能力を超えています。

417 日没の美しさは、言葉では表せないほどだった。

418 最初のころのつらい困難事にもかかわらず、彼らは結局、結婚した。

419 私が理解できたことから判断すると、彼らは政府に非を認めさせた。

420 このカフェは有名で観光客はもとより地元住民の間でも人気がある。

- 415 所有の **with** 「…を持って」 標準
▶ **with** は「…を持って／…の付いた」という所有の意味を表すことがある。
- 416 能力の限界を超えたことを表す **beyond** 標準
▶ **beyond A** で「Aの(能力の)限界を超えている」ことを表す用法がある。
+プラス **above** にも同様の意味があり、本問は **above me** とも表現できる。
- 417 **beyond description** 「言葉では表現できないほど」 標準
▶ **beyond A** (⇒ 416) を用いた成句表現 **beyond description** 「言葉では表現できないほど」を作る。なお、成句表現では③ **above** は使えない。
+プラス **beyond** を使った成句表現として、以下のものも重要。
・ **beyond recognition** 「見分けがつかないほど」
・ **beyond belief** 「信じられないほど」
・ **beyond reach** 「手の届かないほど」
- 418 譲歩を表す **despite** 「…にもかかわらず」 標準
▶ **despite A=in spite of A** 「Aにもかかわらず」(⇒ 811)の形で使われる **despite** は前置詞。よって、本問での **their severe early troubles** のような名詞句を伴う。
- 419 判断の根拠・観点を表す **from** 「…から判断すると」 標準
▶ **from** には、判断の根拠や観点を示す用法があり、「…に基づいて／…から判断して」という意味を表すことがある。
+プラス 本問の **from** は、ほぼ **judging from A** (⇒ p.72[整理18])に置きかえられる。
▶ **convince A to do** 「Aを説得して…させる」
- 420 **among** 「…の中で」の用法 標準
▶ **among** は、通例、複数(扱い)名詞を従えて、「…の中で／…の間に」の意味で用いられる。
!!注意 ③ **in** が、「…の中で」の意味で用いられる場合は、場所などを示す単数名詞を伴うのが原則。本問では不可。
- 421 **between** 「…(2者)の間に」の用法—**among** との違い 標準
▶ 2者があって、「…の間に」の意味を表す場合には **between** を用いる。
▶ **among** は3者以上の場合に用いる。

422 My doctor always talks to me () a teacher talking to a child.

□□□

- ① like ② resemble ③ same ④ similar <東京理科大>

423 That professor is considered () the most notable scientist in Japan.

□□□

- ① for ② as ③ from ④ to <亜細亜大>

424 Please refrain from talking () the mobile phone near the priority seats in the train.

□□□

- ① by ② on ③ at ④ in <桜美林大>

425 A policeman caught me () arm.

□□□

- ① with an ② by the ③ by an ④ with the <流通経大>

426 She looked me ().

□□□

- ① by a face ② by the face
③ in a face ④ in the face <北海学園大>

427 コーチは私の肩を軽くたたきながら、励ましてくれた。

□□□

The coach encouraged me, (shoulder / tapping / on / the / my / me). (1語不要)

<千葉工大>

- 422 私のかかりつけの医者はいつも教師が子どもに話すように私に話す。
423 あの教授は日本で最も著名な科学者だと思われる。
424 電車内の優先席近くでは、携帯電話で話すことはひかえてください。
425 警官が私の腕をつかんだ。
426 彼女は私の顔を見つめた。

- 422 **like** 「…のように」 標準
 ▶ **like** には前置詞の用法があり、**like A** で「Aのように／Aに似た／Aらしい」などの意味で用いられる。
 +プラス **like A** の反意語 **unlike A** 「Aと違って／Aに似ていない／Aらしくない」も重要。
- 423 前置詞 **as** 「…として」 標準
 ▶ **as** には、接続詞用法(⇒ Point 102, p.143【整理35】)以外に、「…として」の意味の前置詞としての用法がある。
- 424 **on [over] the phone** 「電話で」 標準
 ▶ 「電話で」は、**on [over] the phone** または **by phone** で表す。
 !!注意 「電話で」を **by** で表す場合は **by phone** のように無冠詞になるので、① **by** は使えない。
- 425 **catch A by the arm** 「Aの腕をつかむ」 標準
 ▶ この表現は、まずA(人など)をつかんだことを明らかにし、その後の前置詞句でその部位(腕など)を表現するという英語独特の用法。
 +プラス この種の表現では、前置詞の種類およびその句の中では定冠詞の **the** が用いられるという2点が重要。【整理38】で、そのパターンを押さえること。
- 426 **look A in the face** 「Aの顔を見る」 標準
 ▶ この **look** は他動詞。**look at A in the face** とは言わない。
- 427 **tap A on the shoulder** 「Aの肩を軽くたたく」 標準

整理 38

catch A by the arm のパターン(Aは人, 身体の一部を示す the)

- **catch A by the arm** 「Aの腕をつかむ」(⇒425)
- **look A in the face** 「Aの顔を見る」(⇒426)
- **slap A in the face** 「Aの顔をひっぱたく」
- **tap A on the shoulder** 「Aの肩を軽くたたく」(⇒427)
- **touch A on the shoulder** 「Aの肩に触れる」
- **kiss A on the cheek** 「Aの頬にキスする」など

422 ① 423 ② 424 ② 425 ② 426 ④

427 tapping me on the shoulder (my 不要)